

国の環境保全有識者会議ヒアリングについて（意見）

川根本町は町全体が南アルプスユネスコエコパークの移行区域に指定されております。

南アルプスユネスコエコパークは、山梨県（韮崎市・南アルプス市・北杜市・早川町）、長野県（飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村）、静岡県（静岡市・川根本町）の 10 の市町村で構成しております。特色は、南アルプスの 3,000m 峰の山々が連なる急峻な山岳環境の中、固有種が多く生息・生育しており、わが国を代表する自然環境を有しているところです。また、富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに古来より固有の文化圏が形成され、伝統的な習慣、食文化、民俗芸能等を現代に継承されております。

トンネル掘削工事に伴う大井川上流部における河川の流量変化により守るべき極めて希少な生態系への影響が懸念されます。

仮に生態系への影響が大きい場合は、今後のユネスコエコパーク更新（2024 年度）にも影響が懸念され、場合によっては「認定取り消し」なども考えられます。そうした場合は、南アルプスに連なる 10 市町村にも大きな影響をもたらすことが考えられます。

このようなことから、工事前のモニタリング調査だけではなく、工事中や工事後におけるモニタリングについてもしっかりと実施していただき、生態系への影響を考慮するとともに、場合によっては、工事を中止するなど、流域住民が安心できる施工計画を作成されることを望みます。

また、トンネル掘削における発生土置き場につきましては、360 万 m³ の土砂を燕沢や藤島沢付近に盛土される計画であります。熱海での土砂災害にもありましたように大雨による堆積土砂の崩落や流出、有害な重金属等の流出などにより、河川の閉塞（土砂ダム）を引き起こし、二次災害を発生させる可能性や掘削土からの重金属等の流出による河川の水質の悪化などにより、大井川上流部の生態系に影響を及ぼす恐れがありますことから、工事前、工事中や工事後におけるリスク管理をしっかりと実施していただくことを併せて望みます。

現在も、静岡県中央新幹線環境保全連絡会議の「生物多様性専門部会」や「地

質構造・水資源専門部会」において協議されているところであり、流城市町としては静岡県を筆頭に協議を見守っていることから、国の環境保全有識者会議におかれましても流域の住民が納得できるような説明と対応につきまして十分な協議を進めていただくようお願いいたします。

令和4年10月7日

静岡県川根本町長 菌田靖邦